

山形県歴史の道「六十里越街道」を記録する会は、古代から明治30年代まで利用されていた山形県の庄内と内陸を結ぶ六十里越街道（西川町本道寺～朝日村大綱）の内、その存在すら分からなくなった区間約14km（西川町砂子関～朝日村笹小屋跡）について、埋もれた歴史的・文化的遺産である石畳、供養塔、茶屋跡の石垣、砲台跡がある幻の街道を平成9年度より復元整備しています。

また、この復元された街道の活用方策として、「六十里越街道を歩く」というイベントの企画を行い、地域の旅館等を指導するとともに、街道の歴史的・文化的資産の重要性の啓発のため幅広い取り組みを実施しています。

これらにより、イベント回数は年々増加しており、観光資源として注目されているほか、生きた学習素材として生涯学習や総合学習でも活用されるに至っており、さらに、登山地図等の出版物に復元されたルートが記載されるなどの成果もみられます。



古道のガイド



発掘後の街道



記録書の作成

data4

- ①山形県西川町、朝日村
- ②・東北自動車道 月山 ICから 10分（西川町側）
・東北自動車道 湯殿山 ICから 10分（朝日村側）
- ③月山、湯殿山、弓張平公園、寒河江ダム
- ④1.街道の調査研究・測量・刈り払い
2.イベント「六十里越街道を歩く」の企画指導
3.出羽三山供養塔、石畳等の発掘整備
4.街道の案内及び案内人の養成 5.普及啓蒙の為の講演
- ⑤西川町 総務企画課 電話番号 0237-74-2111

